

大岩もとみさんの投稿が中日新聞に掲載

平成31年4月30日、平成最後の中日新聞の『発言』に、大岩もとみさんの投稿が掲載されましたので紹介します。

もとみさんは大正12年生まれで現在96歳。大正、昭和、平成の時代を生きてこられました。今回、新たに令和という時代を迎えるにあたり、平和への思いをしたためた投稿が、編集者の目に留まったようです。



発言

平和を分かち合えたら

大岩もとみ 無職
(岐阜県白川町) 96歳

私は大正の生まれで昭和、平成と生きて二十八日に九十六歳になりました。明日、新時代の令和が幕を開けます。

太平洋戦争のとき、長兄は南方のバラオ、次兄はラバウルにそれぞれ出征し、いずれも戦後に復員しました。長兄は爆弾で負傷し、次兄はサツマイモやジャガイモで飢えをしのいだと聞きました。まさか二人とも無事で帰国できると思ってもいませんでしたが、長兄は祖国の地を踏んで聞かせん。

次兄は長命でしたが、最後は「ラバウル」と墨書した紙数十枚で家のベッドを埋め「どうとうラバウルから出られなかった」との言葉を残して逝きました。

今、私は入所する特別養護老人ホームで穏やかに暮らしています。部屋から見られるタンポポが咲き誇る平和な眺めを、若くして亡くなった母や男手一つで私たちを育ててくれた父、助け合ったきょうだい、亡夫らと分かち合つことができたらと思わずにはいられません。

今回の投稿について、もとみさんにインタビューしました!!!

Q:中日新聞への投稿のきっかけは何ですか?

A:せっかく新聞をとって読むようになったで、書いてみたら、こんな大事になってびっくりしたけど、嬉しかった。

Q:今後も新聞への投稿は続けられますか?

A:これからも機会があれば書いてみたいけど、調子に乗るといかなでほちほちやりたいわ。

Q:楽しみなことは何ですか?

A:デイサービスへ通っていた時から良くしてもらっている職員さんや家族が面会に来てくれること。

Q:最近嬉しかったことはありますか?

A:もちろん、新聞に自分の投稿が掲載されたこと。他には可愛いひ孫の顔をみることが出来たこと。母の日に子どもからプレゼントをもらったことなど、色々あって、私は本当に幸せ。

Q:毎日の日課は何ですか?

A:新聞を読んだり、日記を書いたり、脳トレプリントを解くこと。ボケ防止のつもりで頑張ってる。

Q:今後の目標について教えてください?

A:妹の信子に会いたい。会うまでは頑張ってる生きとらないかんと思ってる。子どもや孫、ひ孫に会うことも楽しみやし、早く迎えが来んかなと言うと、みんなに叱られるで、もうちょっと生きてみようかな。



「やった!賞がもらえるなんて思わなくて」と入賞を知ったときの喜びを語られました。子供のころから新聞が好きで読み書きも好きだった、俳句は本を読んで独学で学ばれたそうです。サンシャインに入所してから俳句を趣味として施設のおたよりに掲載されることを励みにされています。

「忘れやすくなったけど作りたい気持ちはある」と力強く話されました。今後の作品も楽しみにしています。

紅をひく白寿の母の初鏡

熊崎十千枝さん
俳句が第2位に入賞

(白川町新春文芸大会にて)